杏林大学病院ニュース

No. 46
発行 2021年4月

地域医療の充実をめざして
関係機関の皆さまとともに

CONTENTS

・病院長ご挨拶
・副院長就任ご挨拶
・中央病棟手術室増築計画
・就任教授紹介
・診療科紹介
・学会理事長就任
・令和元年度病院年報発行

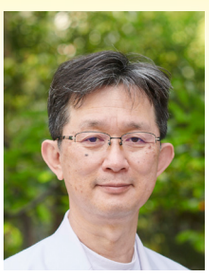
編集：杏林大学医学部付属病院
〒181-8611 三鷹市新川6-20-2
TEL 0422-47-5511（代表）
https://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/

新しい年度がスタートしましたが、当院の診療体制にも変化がありました。医療安全担当の副院長に脳卒中科の平野照之教授が、また小児科の診療科長に成田雅美教授がそれぞれ就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症に関しましては、地域の医療機関の皆様と連携して対応してまいりましたことに感謝申し上げます。昨年の今頃、東京都は緊急事態宣言下にありましたが、今年も第4波の懸念から「まん延防止等重点措置」が、さらに4月25日には3度目の「緊急事態宣言」が出されました。当院でのワクチン接種は4月中にほぼ完了いたします。変異ウイルスの影響がどの程度か予測できない要素もありますが、高齢者および一般住民のワクチン接種がある程度完了するまでの、この2、3か月間が辛抱の時と考えております。

今後も皆様と協力してこのウイルスと闘っていきたいと思います。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

杏林大学医学部付属病院
病院長　市村正一



4月1日付で副院長（医療安全管理担当）を拝命いたしました。担当領域は、医療安全推進のみならず、感染対策、高難度新規医療技術評価、未承認新規医薬品評価など多岐にわたります。身に余る大役ですが、市村病院長を支え特定機能病院として地域医療に貢献する所存です。

私自身は2014年に杏林大学に着任し、これまで脳卒中センター長・患者支援副センター長として地域の皆様と緊密な連携を構築してまいりました。この経験を活かし地域の医療機関の皆様に安心して患者さんをご紹介いただけるよう、院内全部署と有機的に連携しながら、あたたかい心のかよう良質な医療の提供に努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

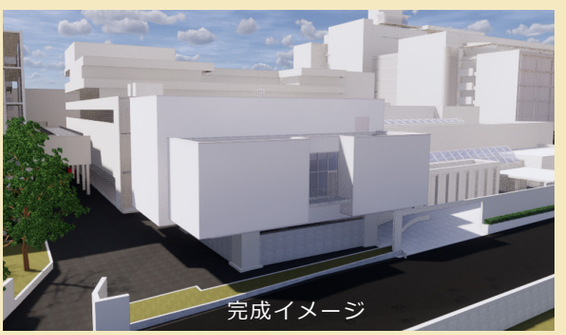
副院長、医療安全管理部長
平野照之

中央病棟手術室増築計画

現在、当院には21室の手術室があり、新型コロナウイルス感染症拡大前の時点で、稼働率は90％を超える状況となっていました。今後、患者さんの手術のニーズ増加に応えられるよう、手術室を3室増築する計画です。

【概要】
増築手術室：より高度な手術を行うハイブリッド手術室1室
　　内視鏡手術対応可能な手術室2室
増築場所：中央病棟と高度救命救急センターの一部
増築延べ床面積：803.82㎡

【工事計画】
準備・解体工事開始：2021年4月
本工事着工予定：2021年10月1日
手術室稼動予定：2022年夏季頃


完成イメージ

2021 年 4 月就任 教授紹介

麻酔科
（臨床教授） 森山（もりやま） 潔（きよし）

慶應義塾大学医学部 卒業　博士（医学）
慶應義塾大学医学部助教、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校麻酔科などを経て、2009 年杏林大学医学部麻酔科学教室 着任

当院は多摩地区に存在する特定機能病院として、安全に最善の努力を払いながら、あたたかい心のかよう、良質な医療を患者さんに提供する責務がございます。
麻酔科医は手術や集中治療など侵襲的な治療を行う部署において、患者さんの苦痛を和らげるために活躍しています。今後とも御指導の程宜しくお願い申し上げます。

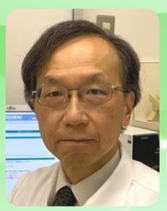
眼科（アイセンター）
（臨床教授）慶野（けいの） 博（ひろし）

東京医科大学医学部 卒業 博士（医学）
東京医科大学眼科学教室助手、米国スケペンス眼研究所研究員を経て、2007 年杏林大学医学部眼科学教室 着任

杏林アイセンターは眼科のあらゆる疾患に対して、高度で質の高い医療を提供するために 1999 年に設立されました。現在 10 を超える専門外来を有し、多摩地区の中核施設としての役割を担っています。
患者さんの Quality of Vision の維持、向上に力を尽くすとともに後進の育成にも努めていく所存です。

診療科紹介

神経内科



診療科長・教授　千葉厚郎
脳神経内科全般、臨床神経内科学、免疫性神経疾患

教授　市川弥生子
脳神経内科全般、臨床神経内科学、遺伝医学、特に遺伝性神経疾患

講師　宮崎 泰
脳神経内科全般、臨床神経内科学

神経内科は、脳・脊髄・末梢神経・筋肉などの病気を専門的に診断・治療する診療科です。神経内科を受診される患者さんは、頭痛、めまい、ふるえ、脱力、しびれ、歩行障害、複視、意識障害といった多岐にわたる症状を示します。まず、病歴（症状の内容と経過）聴取と神経学的診察を行い、必要な検査（血液検査・髄液検査・画像検査・電気生理検査など）と併せて総合的に判断して病気を診断し、治療方針を決めていきます。具体的な疾患として、ギラン･バレー症候群・多発性硬化症などの免疫性神経疾患、パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、遺伝性神系疾患、脳炎・髄膜炎などの感染性疾患、てんかん・頭痛などの機能性疾患などを対象とし、厚生労働省により難病に指定されている疾患も多く含まれます。
当科では、神経内科専門医が 10 名おり、平日の外来診療を担当しています。また、臨床遺伝専門医が 1 名、臨床神経生理学会専門医が 2 名在籍しています。外来診療では特殊専門外来を置かずに、神経疾患全般を総合的に診ることを心がけており、病歴・臨床所見を基盤とする診断学に特に重きを置いています。その他、ギラン・バレー症候群を含む免疫性神経疾患の抗神経抗体測定、臨床遺伝的アプローチによる遺伝性神経疾患の診断、電気生理学的検査による神経疾患の診断・評価は、当科で力を注いでいる領域です。
今後より一層、近隣医療機関との連携を深め、地域医療の充実に努めてまいります。

学会理事長 就任

日本脳腫瘍学会　理事長

脳神経外科 教授 永根基雄［2020 年 11 月就任］
国内の脳腫瘍関連の学会・研究会の中で、約 40 年と最も歴史のある学会で、日本脳神経外科学会の脳腫瘍領域の分科会にも指定されています。脳腫瘍学の発展に向け、基礎及び臨床研究の推進、診療や連携の充実、情報の発信等に取り組んでいきます。

日本角膜学会　理事長

眼科（アイセンター）教授 山田昌和［2021 年 2 月就任］
角膜は眼科のなかでも臨床研究や基礎研究の盛んな分野で、角膜上皮、内皮の再生医療やドライアイ研究などでは、世界的にもトップを走っています。40 年以上の歴史がある学会の理事長として、国際化と臨床研究の推進、情報発信等に取り組んでいきます。

令和元年度 病院年報を発行

外来・入院診療実績、医療の質・自己評価、各診療科の診療体制や先進医療への取り組み、診療実績などを紹介しています。
本誌は医師会や地域の医療機関等へお届けしています。また、当院 HP でもご覧いただけます。(2021年3月発行)